

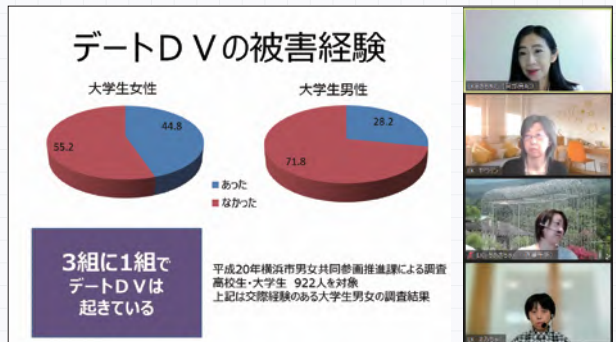
暴力を受けていい人はひとりもない デートDVを考えるワークショップ開催

キャンパス・ハラスメント対策室(室長:内藤光博法学部教授)は7月1日(木)、「デートDV 予防啓発ワークショップ」を川崎市の協力でNPO法人エンパワメントかながわの方々に講師にオンラインで開催した。内藤教授の授業「日本国憲法」の履修生が受講し、恋人間の暴力「デートDV」について、グループでの意見交換などを行った。

カップル3組に1組で起こっているともいわれるデートDV。性別に関係なく被害は起こり、身体的な暴力だけでなく、言葉の暴力や行動の制限なども含まれる。恋愛感情があるために、被害者も加害者も状況を客観的に把握しづらい傾向があるという。

「暴力を受ける人は、自分が悪いからと思いがちですが、人権の観点からも暴力を受けていい人はひとりもない」「違いを認め合い、相手を尊重することが大事」と講師の阿部真紀さんは学生に呼びかけた。

被害者、加害者それぞれの立場になって気持ちを考えるグループワークのほか、被害に遭っている友人との会話のシミュレーションなどを通し、学生は理解を深めた。



↑ Zoom 画面。右列は講師陣で、一番上がエンパワメントかながわ理事長の阿部真紀さん

相談機関

デートDV110番 050-3204-0404

通話料無料のブラウザ電話もあります

LINE相談も始めました

友達追加してね→@ddv110

デートDVのことなら、誰でも、どんなことでも相談できます

毎週火・水・木 19~21 時 土曜日 18~21 時

ddv110

↑ 相談機関なども紹介。

★詳しくは「エンパワメントかながわ」HPをご覧ください

受講した学生の感想

アンケート回答から一部抜粋するなど、主旨を変えない範囲で手を加えています。

常にスマートフォンを見ている人も多く、返信の遅さを気にする人もいます。でも、そうしたとき相手を尊重することが大事だと今回の講義で改めて感じました。(19歳)

デートDVがカップルの3組に1組もあると知って驚きました。今思うとあの友人もしかしたら…なんて思うこともありました。友人としてどう接するべきなのか、また、当事者になってしまったらどうするべきなのか、もっと考えていきたいと思えます。(18歳)

被害者の気持ちを内面から考えることは初めてでした。また、加害者がどんな気持ちでその行動に至るのか、これまであまり考える機会がなかったので、とてもためになりました。(19歳)

DVは簡単に相談できないものだから、周りが気づいて優しく寄り添うことが必要だと思いました。もし相談されたら、優しさをその場凌ぎにせず、DVをなくす努力をすぐに始めることが重要だと思いました。怖くても挑む勇氣が必要だと感じました。(18歳)

大学の取り組み

キャンパス・ハラスメント対策室長
法学部教授 内藤光博



大学における快適な勉学環境を維持するためには、あらゆるハラスメントを防止し、根絶していかなければなりません。キャンパス・ハラスメント対策室では、予防啓発活動の一環として、学生の皆さんを対象に、毎年「デートDV予防啓発ワークショップ」を開催しています。

今回のワークショップに参加してくださった学生の皆さんからは、暴力により相手を支配しようとするデートDVは人権侵害であること、相手をひとりの人間として尊重することが重要であることが分かったなどの感想が寄せられました。学生の皆さんの間で、デートDVの問題性に対する理解が深められ、たいへん嬉しく思います。

当対策室は、デートDVはもとより、あらゆるハラスメント被害に関する相談にのりますので、学生の皆さんは、ひとりで悩むことなく、気軽に相談してください。保護者の方からのご相談にも対応しています。

キャンパス・ハラスメント対策室へのご相談はこちらへ [✉ camhara@acc.senshu-u.ac.jp](mailto:camhara@acc.senshu-u.ac.jp)